



国文  
特別図書  
1965年度

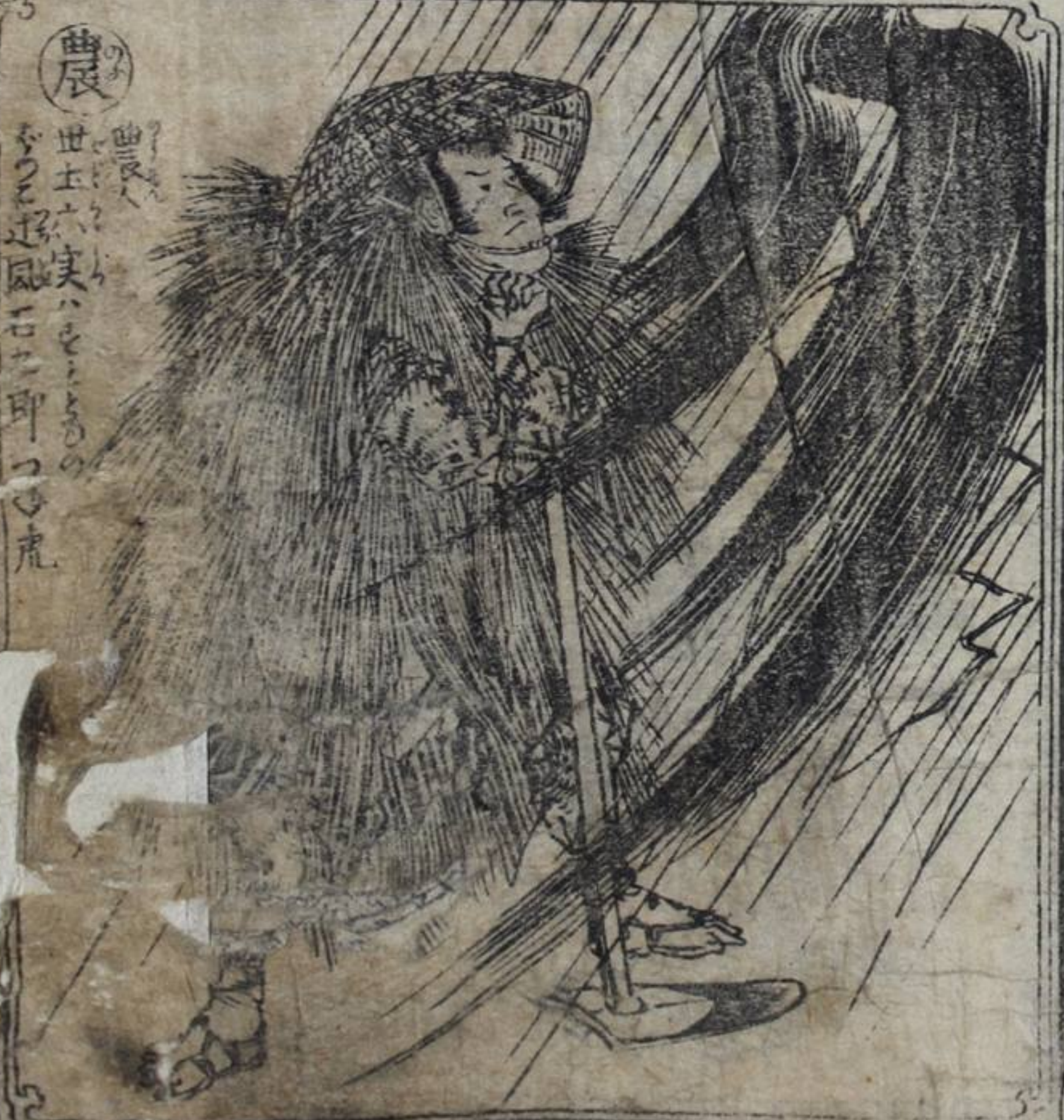
国文  
24L  
4 3171

40. 8. 26  
7306531

# 陸奥新書

農

曲長  
世土六実ハ  
をツモ  
延風  
石二  
即ツ  
心虎



文化  
戊辰  
新刊  
敵女今

山東京山作  
歌川豊国画





読則ききし吉文  
 山東兩家の著作也  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり

あまのついでめ 絵本  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり  
 一書にききし吉文あり

京山家制定價  
 水長印十好銅印  
 一文字印 三好銅石  
 印五分 老国よりハ  
 印材ハ刺料ハ是ハ  
 京山家制定價

工

京都美影堂の  
 扇折お夏



小雁斜侵眉柳  
 衣媚霞横接眼  
 波来闊  
 扇より松子ゆふ  
 続の蝉

商

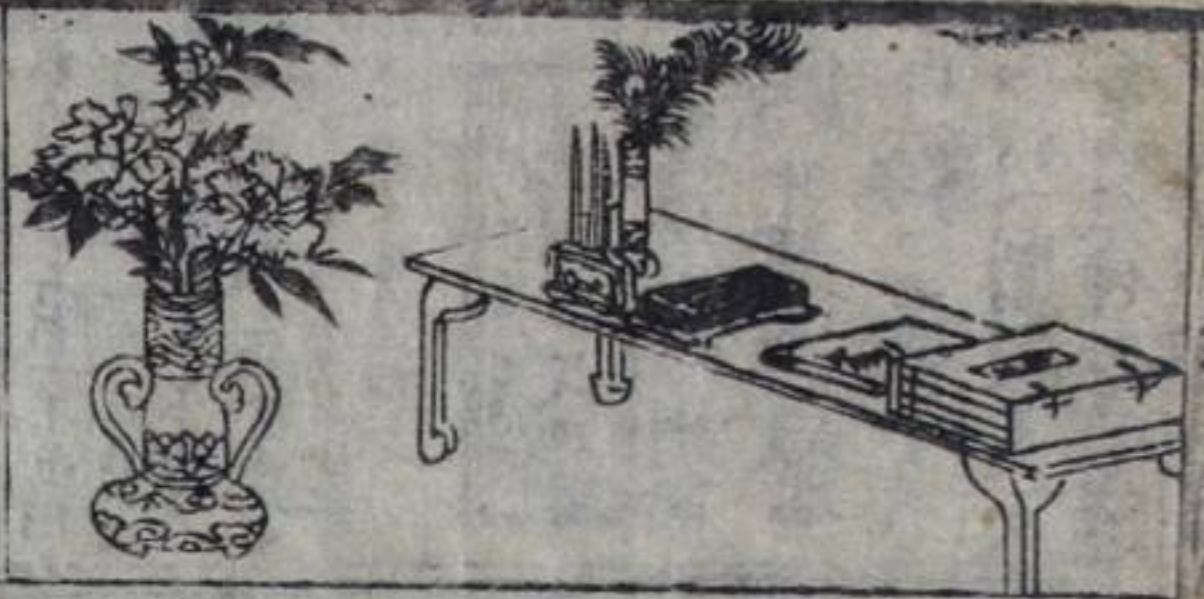
京の賈人末廣屋仁吉郎



取嫌神  
 女来行  
 雨愛  
 伴西  
 施太  
 採香  
 虫紙囃人  
 蝶々牡丹  
 ようらうら

東	深	築	仲	詞	有	賞	千	目	墨	窓
京	處	翠	橋	題	兩	心	萬	橫	遲	前
山	山	柳	小	於	三	只	字	斜	觸	落

宜	必	編	題
莫	合	書	客
怪	時	未	川
			編
			首



復讎女今川自序

予去年妹背山の事を知りて始めて世累の春以て今  
 今歳鏡山小遊て雅劇の面影とてうらやまを  
 秘て出陣の斬るふの舟のいりて今  
 今川の流るる筆の揮拭昇を因て洋の根  
 かりて種とて水釜のたぐりて小書か  
 つる見書お色の物草史を公論いりて書  
 のつるる文の林の川とてつるりて書  
 こととて四経の緒を解ハ魚成得て空城と  
 る識小庶幾年

山東舎 京山識

文化丁卯冬十月三日起筆同五月脱稿

復讎女今川自序

予去年妹背山の事を知りて始めて世累の春以て今  
 今歳鏡山小遊て雅劇の面影とてうらやまを  
 秘て出陣の斬るふの舟のいりて今  
 今川の流るる筆の揮拭昇を因て洋の根  
 かりて種とて水釜のたぐりて小書か  
 つる見書お色の物草史を公論いりて書  
 のつるる文の林の川とてつるりて書  
 こととて四経の緒を解ハ魚成得て空城と  
 る識小庶幾年

七夕の狂歌

仲秋の夜ふゆふ今川の  
 せしむるくは宴遊真



仲秋の夜ふゆふ今川の  
 せしむるくは宴遊真

京傳自画賛  
 京山狂詩狂  
 文面画たんざく  
 京傳をせりてつる  
 画筆をえりてつる  
 さし上りてつる

わづねん

今いかに建久のころとよふさぬまのせんがい仲秋左門の  
かんふもち月時とよふさぬまのありけり又おるじかんた  
黄耳けんちとよふさぬまのありけり又おるじかんた  
けんちけんちとよふさぬまのありけり又おるじかんた  
あるふりておるのいのちを仲秋のいとおるま  
けんちけんちとよふさぬまのありけり又おるじかんた  
けんちけんちとよふさぬまのありけり又おるじかんた  
けんちけんちとよふさぬまのありけり又おるじかんた



さるもそのころ京都の町末末廣屋仁吉よふものあてけり扇をあのよりの  
 へあまへくつぬの名をか取とてみてもあつちよづのいもまをかくしんくまのとい  
 るみづたれんさふさぎつひはばいばいもて二ハとえはあふふあつちよび  
 かに仁吉とむそなはけりありあつちよむさめ小つこはにけりふ六女之仁吉は  
 くのむのとやせしり養父にあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 まてに吉よまむをたねに吉よまむとつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 まどまむあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 ひとあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 のひのにもあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 ひつとあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 とのほくとあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 ことかたあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 こもびとあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 びとあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ  
 吉日とあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよあつちよ





仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき



あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき

あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき

仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき

仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき



あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき

あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき  
あはれむ仲秋の夕ぞわづらひのけしき









くはあゆむ



あゆむ  
あゆむ

八三

くはあゆむ... 八三



あゆむ... あゆむ

あゆむ... あゆむ



いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい



うき



Oh...  
...  
...

いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい

いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい

いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい  
...



いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい

いんあり  
るるろろ  
あれい  
のい





豊國画

山東京山作



玉苗姫思小  
 碎て大神の  
 正襟とありを  
 深宮飽食恣揮舞  
 眠纏貫不舞 国 国

玉苗姫思小  
 碎て大神の  
 正襟とありを  
 深宮飽食恣揮舞  
 眠纏貫不舞 国 国



玉苗姫思小  
 碎て大神の  
 正襟とありを  
 深宮飽食恣揮舞  
 眠纏貫不舞 国 国









かのむねは...  
 かのむねとせふ二人...  
 かのむねの...  
 ...  
 ...  
 ...



びやう...  
 飛行自...  
 ...  
 ...  
 ...



金輪太郎 單身登  
八滝新怪獣圖



金輪太郎  
八滝新怪獣  
大蛇と切て仲むれ  
はげり仲むれ  
その勇力と  
あつちや  
ひたひた



狐の  
ハツタ  
大蛇神と  
あつちや  
今、小の  
あつちや  
あつちや

今、ハツタ

らぶわつて... (Vertical text columns at the top of the right page)



れども... (Vertical text columns on the left side of the left page)















こふまに石をもちてまゝに  
 仁王にまじりてあつて  
 るるがだのこふまに  
 ありてまゝに  
 山中のまじりて  
 せまじりて  
 一とまじりて  
 さやまのまじりて  
 おまのまじりて  
 ちちのまじりて  
 ついで



こふまに石をもちてまゝに  
 仁王にまじりてあつて  
 るるがだのこふまに  
 ありてまゝに  
 山中のまじりて  
 せまじりて  
 一とまじりて  
 さやまのまじりて  
 おまのまじりて  
 ちちのまじりて  
 ついで

こふまに石をもちてまゝに  
 仁王にまじりてあつて  
 るるがだのこふまに  
 ありてまゝに  
 山中のまじりて  
 せまじりて  
 一とまじりて  
 さやまのまじりて  
 おまのまじりて  
 ちちのまじりて  
 ついで



こふまに石をもちてまゝに  
 仁王にまじりてあつて  
 るるがだのこふまに  
 ありてまゝに  
 山中のまじりて  
 せまじりて  
 一とまじりて  
 さやまのまじりて  
 おまのまじりて  
 ちちのまじりて  
 ついで



この山に... (vertical text on the right margin of the left page)

され... (vertical text above the illustration on the left page)



... (vertical text above the illustration on the right page)



... (vertical text below the illustration on the right page)







国文  
 24L  
 43

女今川全

春館挑燈読未  
 終銜杯愛賞百  
 夕空玉堂風月  
 元无價擡舉一  
 枝花退紅

涼

樂



京傳にせよ  
 識書一色を  
 才一をえと  
 ありえとを  
 のくつを不用  
 といやま  
 眼目  
 京でん自画  
 さんゆか  
 さんてく  
 さんてく

位のはの  
 さんてく  
 さんてく  
 さんてく

小泉新八



山東京山作  
 歌川豊国画

